

教育研究分野科目

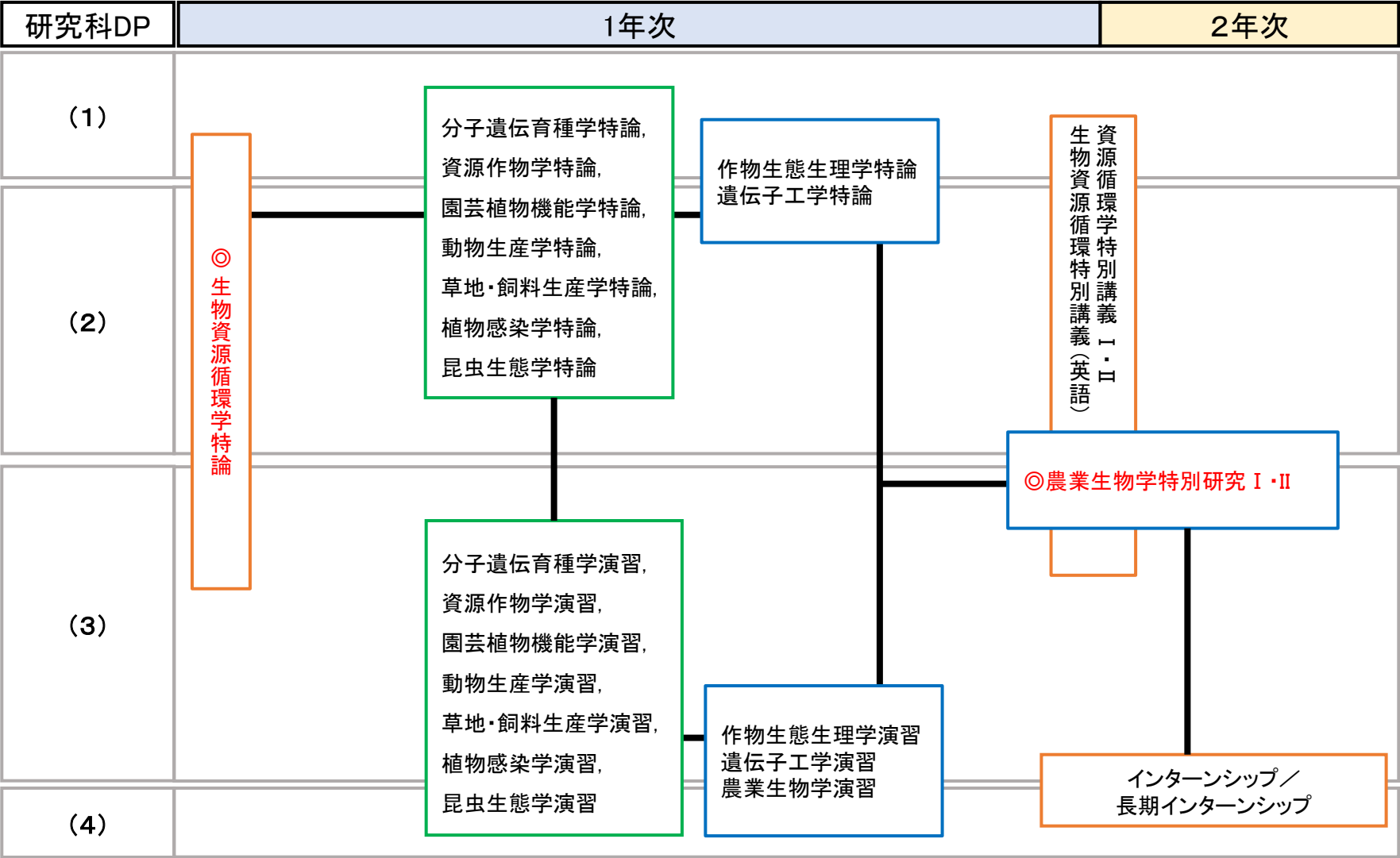
講座共通科目

専攻共通科目

【博士前期課程ディプロマポリシー】

- (1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけている。
- (2) 自然環境を損なわない生物資源の開発、保全、利用に貢献できる生物資源学の専門的な知識と技術、経験を有している。
- (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
- (4) 他者と協力して問題解決に取り組むために十分なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。

◎必修科目 選択必修科目



区分	授業科目名	到達目標	研究科 DP との関連			
			(1)	(2)	(3)	(4)
教育研究分野授業科目・選択必修	分子遺伝育種学特論	植物の分子遺伝育種学に関連する知識を身につけ、当該分野の最新の研究成果とその実用的応用について理解を深めることができる。	○	◎		
	分子遺伝育種学演習	分子生物学的研究手法ならびに遺伝学的解析法について理解し、植物の広範な生命現象の解明に対応できる応用力を習得する。			◎	○
	資源作物学特論	資源作物について、その生産と利用にかかわる最新の知識について検討を行い、作物生産の理論と技術に関する知識の拡大・深化を図る。	○	◎		
	資源作物学演習	資源作物について、その生産と利用にかかわる最新の知識について検討を行い、作物生産の理論と技術に関する知識の拡大・深化を図るとともにプレゼンテーションの手法を修得する。			◎	○
	園芸植物機能学特論	園芸植物における栽培上の諸問題を理解し、これら問題点に関与する環境や生理学的な要因を自ら解析できるようになる。	○	◎		
	園芸植物機能学演習	園芸植物の基本的な栽培生理過程を理解し、その生理現象の多様性を把握するとともに、生理過程を調節するメカニズムについて深く洞察する能力を修得する。			◎	○
	動物生産学特論	動物の栄養や生理について、学部での基礎的な内容を復習しさらに発展させた専門的知識を習得する。	○	◎		
	動物生産学演習	動物生産について、最新の知識について検討を行い、理論と技術に関する知識の拡大・深化を図るとともにプレゼンテーションの手法を修得する。			◎	○
	草地・飼料生産学特論	牧草や穀類、食品製造副産物など様々な飼料資源の特徴と反芻家畜の消化生理に関する理解を深め、飼料資源の栄養評価に応用できる能力を身に付ける。	○	◎		
	草地・飼料生産学演習	飼料資源に含まれるデンプンや繊維、タンパク質等の栄養成分とそれらの反芻家畜による消化や代謝について理解を深め、飼料資源の栄養的特性の解明や新たな評価方法の確立に資する応用力を身につける。			◎	○
	植物感染学特論	植物寄生菌を題材として、分類学の諸問題、地球規模での多様性等を理解するとともに、その利用について各自の研究テーマを絡め発表と議論を行い科学者としての能力を涵養する。	○	◎		
	植物感染学演習	植物病理学、分子系統学、菌類分類学に関連する外国文献等の紹介をプレゼンテーション形式で行うことで、深い理解を得るとともに、批判的な思考力とディスカッション能力を身につける。			◎	○
	昆虫生態学特論	昆虫学・生態学の最新の知見を得るための論文読解能力、データ解析方法を身につける。	○	◎		

	昆虫生態学演習	自らの研究について発表と質疑を行うとともに関連論文を読むことで、昆虫固有の生態学的事象についての研究計画の立て方、調査実験、データ解析の方法、論文の書き方を習得する。			◎	○
講座共通科目	農業生物学特別研究Ⅰ	農業生物学に関する研究テーマに沿った研究計画の策定、研究の遂行、研究成果のプレゼンテーションなどの能力を習得する。		◎	○	
	農業生物学特別研究Ⅱ	農業生物学に関する研究テーマに沿った研究計画の策定、研究の遂行、研究成果のプレゼンテーションなどの能力を習得する。		◎	○	
	作物生態生理学特論	植物の水分生理、物質生産に関連する研究の歴史ならびに最前線を知ることで、時間と領域を軸にした研究の二次元的展開について理解できるようにする。	○	◎		
	作物生態生理学演習	植物の物質生産ならびに、強く関与する水分生理に関する分野の論文検索手法ならびに論文読解力、プレゼンテーション力(構成、発表方法)を習得することで関連研究分野の最新情報、研究の歴史を理解するとともに学会発表などに耐えるプレゼンテーション力を養成する。			◎	○
	遺伝子工学特論	最新の遺伝子工学関連研究の概要を理解し研究手法や実用的応用について理解を深めると共に、論文作成に関わる基礎的な力を身につける。	○	◎		
	遺伝子工学演習	新たな分子生物学的解析手法や遺伝子工学技術を理解し、遺伝子解析から生命現象を理解・解明する応用力を習得する。			◎	○
専攻共通科目	農業生物学演習	農業生物学に関する論文を検索し、その内容を理解するとともに、他者にその内容を理解させることができる。また、修士論文作成に関する知識を習得する。			◎	○
	生物資源循環学特論	専攻教員による各教育研究分野の内容に関連する講義により、先端的研究の現状を理解するとともに、国際的かつ学際的な視点から研究する姿勢を身につける。	◎	○	○	
	生物資源循環特別講義	応用段階の英語学習として、生物資源にまつわるテーマについて、論理的に理解・整理し、建設的な結論を導き出す訓練を通して、より高度かつ効率的な英語力を向上させる。	◎	○	○	
	資源循環学特別講義Ⅰ	主に外国からの招聘教員により実施される英語の講義で、最新の国内外の生物資源学の知見を得るとともに実践的な語学力、コミュニケーション能力を向上させる。	○	○	○	
	資源循環学特別講義Ⅱ	主に外国からの招聘教員により実施される英語の講義で、最新の国内外の生物資源学の知見を得るとともに実践的な語学力、コミュニケーション能力を向上させる。	○	○	○	
	インターンシップ	企業等で就業体験をすることで、自己の適性を正しく知ること、社会人として必要なマナーを習得すること、専門知識の学修や研究に対する目的意識を確立することを到達目標とする。			○	○

	長期インターンシップ	企業等で、長期にわたり研修・研究を行うことにより企業の技術者として必要な実践的能力を習得する。また、企業の技術者としての研究・開発能力を習得する。			○	○
--	------------	---	--	--	---	---

【博士前期課程ディプロマポリシー】

- (1) 幅広い教養と倫理観，国際感覚を身につけている。
- (2) 自然環境を損なわない生物資源の開発，保全，利用に貢献できる生物資源学の専門的な知識と技術，経験を有している。
- (3) 科学的で論理的な思考を展開することができ，計画的に問題の解決に取り組むことができる。
- (4) 他者と協力して問題解決に取り組むために十分なプレゼンテーション能力，コミュニケーション能力を身につけている。